

氏名	井 村 誠
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第2910号
学位授与の日付	平成7年 9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Human Papillomavirus DNA in Cell Lines Derived from Malignancies (悪性腫瘍由来培養細胞株中のヒトパピローウイルスDNA)
論文審査委員	教授 関 周司 教授 新居 志郎 教授 難波 正義

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

子宮頸部癌細胞5株及び頭頸部癌細胞6株を含む悪性腫瘍より樹立された細胞株中の悪性型ヒトパピローウイルス(HPV) 16型18型33型の存否について研究を行った。HPV DNAの16型又は18型がPCR法とサザンブロットハイブリダイゼーション法により子宮頸部癌由来の全ての細胞株中に検出された。制限酵素消化後のHPV DNAのハイブリダイゼーションのパターンは細胞株間で異なっており、このことはこれらの細胞株は全て独立分離株であることを示している。これらのことよりHPV DNAの悪性型が子宮頸部癌に偏在しているように思われる。今回の研究では、HPV DNAは子宮頸部癌以外の他の悪性腫瘍から由来した細胞株中には認められなかったが今後頭頸部癌由来細胞株中にはHPV DNAを検出できる可能性があることが示唆された。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

### 論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究で、申請者は主体的に、子宮頸部癌細胞、頭頸部癌細胞等の悪性腫瘍から樹立された18細胞株中における悪性型ヒトパピローウイルス16、18および33型遺伝子片の有無を、PCR法とサザンブロットハイブリダイゼーション法により検討、解析した。その結果、検索した子宮頸部癌由来細胞株5株すべてにヒトパピローウイルス16または18型遺伝子片の存在を明らかにし、制限酵素切断長パターンの比較から、これら5細胞株はすべて独立の分離株であることを示唆した。また、子宮頸癌以外の悪性腫瘍由来細胞株では、これら悪性型ヒトパピローウイルス遺伝子片を検出しなかった。本研究は、子宮頸部癌由来細胞株と悪性型ヒトパピローウイルスとの間の密接な関係を示しており、さらにこれら細胞株を用いてヒトパピローウイルス遺伝子制御と癌表現形の関係等が解析できる可能性を示しており、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。